

報告書抄録

ふりがな	せいなんちくいせきぐんはつくつちょうさほうこくしょ3							
書名	盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅲ							
副書名	盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成5～12年度発掘調査③ 台太郎遺跡							
編者名	津嶋知弘							
編集機関	盛岡市遺跡の学び館（刊行：独立行政法人都市再生機構・盛岡市・盛岡市教育委員会）							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 電話 019-635-6600							
発行年月日	2010年11月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	(世界測地系)			(㎡)	
だいたろういせき 台太郎遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 むかいなかの 向中野 だいたろう・ようかいちば 台太郎・八日市場ほか	03201		39° 40' 57"	141° 08' 25"	9次:1993.5.11 10次:1995.4.4-4.6 11次:1995.6.19-6.27 12次:1995.9.1-11.30 13次:1996.10.14-10.25 14次:1996.11.25-11.28 17次:1997.8.23 20次:1998.9.17-12.21 21次:1998.9.25 24次:1999.5.6-7.16 25次:1999.7.7-12.15 27次:2000.6.12-11.14 28次:2000.6.12-11.14 29次:2000.7.19-8.25 30次:2000.7.25-7.31 31次:2000.8.1-8.8 32次:2000.9.18-10.20 33次:2000.9.22-10.13 34次:2000.11.20-21	50 1,200 320 5,174 4,064 25 10 1,400 28 3,425 3,674 2,513 460 125 35 128 1,030 695 156	土地区画整理 事業等
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
台太郎遺跡	集落							
第9次調査		なし						試掘確認調査
第10次調査		古代		土坑, 溝跡, 柱穴				試掘確認調査
第11次調査		なし						試掘確認調査
第12次調査		古代		竪穴住居跡, 土坑, 溝跡, 柱穴				試掘確認調査
第13次調査		古代		竪穴住居跡, 土坑, 溝跡, 柱穴				試掘確認調査
第14次調査		古代		竪穴住居跡, 溝跡				
第20次調査		古代以降		土坑9, 溝跡19, 柱穴群		土師器, 須恵器, あかやき土器 中世・近世陶磁器		
第24次調査		古代 古代以降 中世以降		竪穴住居跡20 土坑15, 溝跡51, 道路状遺構 掘立柱建物跡1, 柱列跡2		土師器, 須恵器, あかやき土器 紡錘車, 土錘, 砥石 中世陶磁器		
第25次調査		縄文時代 弥生時代 古代 古代以降 中世以降		土器埋設遺構1 竪穴住居跡73 土坑墓2, 土坑68, 溝跡32 大溝跡1		縄文土器 弥生土器, 縄文土器 土師器, 須恵器, あかやき土器 紡錘車, フイゴ羽口, 砥石 近世陶磁器		
第27次調査		縄文時代, 弥生時代 古代 古代以降 近世以降		竪穴住居跡21 土坑23, 溝跡30 土坑墓2		縄文土器, 弥生土器 土師器, 須恵器, あかやき土器 紡錘車, ミニチュア土器 古銭		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
台太郎遺跡 第 28 次調査	集落	古代 古代以降 中世以降	竪穴住居跡 9 土坑 10, 溝跡 2 掘立柱建物跡 1, 柱 列跡 2	土師器, 須恵器, あかやき土器 中世陶磁器	
第 29 次調査		古代 近世以降	竪穴住居跡 1 土坑 3	土師器	
第 30 次調査		古代	竪穴状遺構 1	土師器, あかやき土器	
第 31 次調査		古代 古代以降	竪穴住居跡 2 溝跡 2		
第 32 次調査		古代 古代以降 中世以降 近世以降	竪穴住居跡 6 土坑 7, 溝跡 8 溝跡 1 井戸跡 2	土師器, 須恵器, あかやき土器 フイゴ羽口 中世・近世陶磁器 近世陶磁器	
第 33 次調査		古代 古代以降	竪穴住居跡 3 溝跡 3		試掘保存措置
第 34 次調査		古代	竪穴住居跡, 溝跡		試掘保存措置
要約	盛南地区遺跡群は, 平安時代初頭の延暦 22 年 (803) に朝廷が造営した古代城柵「志波城」の南東方に位置し, 7 世紀より続く一大勢力「志波エミシ」が 10 世紀まで拠点とした古代集落群が主に確認されている。台太郎遺跡は, 古代の竪穴住居跡が 600 棟以上を数え, 盛南地区遺跡群で最大の集落である。本書掲載の調査では奈良・平安時代の竪穴住居跡 133 棟を精査し, 多数の遺物が出土しており, 主に遺跡西端部と北端部の集落の様相を明らかにすることができた。				